

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	木蔭道 : 短歌
Author(s)	雅男
Citation	龍南會雜誌, 164: 112-112
Issue date	1917-06-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6728
Right	

木 蔭 道

英法二年 雅

男

たゆたひの中に生きつつ罵りて動く人の我は淋しき
言ひてむと思へばさらに口ごもり口ごもりしてもだす我かな
喜びのあまりて今は悲しみのちとまぢり來ぬ花ぐもりする
笑み給へ笑めば心のゆくものを何とや今日の君は淋しき
もの言へばいらへもなさでさとはかり面あからむる君なりしかな
はしけやし汝が黒髪の亂れたる今宵も風は北に吹くらし
秋となり裏の大根の葉が枯れて人を嘲る朝の菜畑
小鳥より身軽く早く美はしく舞へる子いとし唯今日はしも
我が戀は夜明の星よしらじらとあくれば消ゆる人の倅
思ふ事皆背かれて喜びのあとなき我にうつはりの燃ゆ
みんなして我を虐ぐ虐ぐるものは我が仇今宵亡びよ
聖めく我が時時の氣まぐれも今宵は悲し風吹くらしも
曇り來ぬ風有りさては雨ならむ我につれなき天地なるかな
夜はくだつしじまに雨の音さねて心死ぬ可き氣配なるかな